

令和6年4月18日木曜日

13:00～14:00

対面及びZOOMにて

定期巡回のクローバー

令和6年度第一回 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス

介護・医療連携推進会議録

出席者：内海（醍醐学区民生委員会長）、高田（民生委員）、三好（老人福祉委員：欠席）、西村（醍醐北部包括センター所長：ZOOM）、白川（醍醐北部包括センター）、山田（㈱四季代表取締役：ZOOM）、浅田（同和園居宅介護支援事業所長：ZOOM）、松井（地域・レインボーカフェ運営参加者）、星野（クローバー代表）、立脇（クローバー管理者）、嶋田（クローバー事務長）（書記）

（1）クローバー挨拶、構成員紹介（別紙：構成員名簿あり）

代表星野より挨拶

今回の報酬改定は、利益率が高いからという理由であるようだが有料老人ホーム等々の囲い込みが要因ではないとも言われている。地方では倒産等が考えられ、介護事業者のいない空白地帯が生まれる懸念もある。ビジネスケアラーという言葉も生まれてきているよう。様々な課題の中で醍醐地区で引き続き活動を続けられるよう努めていきたい。

（2）R5年9月～R6年3月末までの事業所の動き、周知活動等について

○醍醐事業所〔山科サテライト含む〕について

・ご利用者の推移：R5年9月末 ご利用者数 33名 平均要介護度 3.4

R6年3月末 35名（うち入院2名）3.1

例年通り、利用者数は増減を繰り返しながら経過している。

今回の報酬改定によって基本単位数は減算となり厳しい状況とはなるが、ケアマネジャー様の立場からすると利用できるサービスの選択肢が少し増えるというメリットにはなると考えている。また、夜間対応型サービスの実施が可能となった。何回随時対応があるか想定出来ない不安があるとケアマネジャーから聞いている。日ごろから定期巡回でオペレーター対応をしているため、訪問の必要性の検討などきめ細やかな配慮が出来るのがクローバーの強みであると考えている。

(浅田) 夜間対応に選択の余地がなくこれまで現実一社という形だったので選択肢としてご紹介が出来るということは良いと思う。

(西村) 夜間対応型のデメリットは何があるか？

➡どうしても訪問回数によっては単位数が高くなってしまう可能性がある。

(西村) 切れ目のない支援が重要だと思っているが、定期巡回だとこれまでのヘルパーが使えなくなるという課題があったかと思うが、夜間対応を併用することでこれまでの関係性も続けられるメリットがあると感じた。

(山田) 日中は家族が対応できるが夜間がどうしても不安があるが、ナイトさんを使うには距離があって来てもらいにくいということもあり、困っていたケースもあった。今後ケアマネを通じて相談させてもらうかもしれない。

○連携訪看

3月末 24件(医療連携含む)

包括報酬だから訪問看護もたくさん入ってもらえると勘違いされてしまうこともある。単位数に見合わない回数入ってくださっているように見受けるケースもある。排便コントロールなど介護で請け負えることを介護で行い、報酬に即した支援の入り方をご提案していければと思っている。

(山田) 看護師として直接観察がしたいという思いがあるのは事実。何かあれば訪問するという形をとるにしても、十分観察が出来ていないままに対応しなければならぬと感じている。経営的に言えば週に一回くらいまでであるが、必要な観察を行えるよううまい連携の仕方、工夫など何かないか、と思っている。常に見ていない中での助言が間違ってしまうこともあり得ると思う。色んなステーションの考え方もあると思うが、良いアイデアがあれば教えて欲しいと思っている。第三火曜日に管理者をすずらんに集めて勉強会等を行っている。その中で意見を聞くようなことをしてみても良いかと思う。

(白川) 訪問看護も行きたくても単位数の加減で行きにくいということは体験している。しかし訪問介護では難しい、服薬のタイミングをずらしたり薬を取りに行ったり、という柔軟な対応を訪問看護の指示をもって行うことが出来るという定期巡回ならではのメリットも感じている。

(浅田) 看護師が使いにくくなるというのは実際にある。定期巡回が入ることで否が応でも経営的問題で連携は困ります、というお断りがあったのも事実。医療ニーズが高い方は定期巡回を諦めざるを得ないことはある。国に言っていかなければ仕方ないが。

➡医療ニーズの高い方は、主治医から特別指示書など出してもらえたら誰も困らないが費用的な課題などそうは行かないケースも多々あるかと思います。

○研修・・・「語る介」対面での実技研修や意見交換の場。不安を相談出来る場となっている。ネット研修も引き続き行っている。

介護実習室

- ・救命救急（消防署による研修）
- ・感染症（手洗い研修：訪問看護ステーション仁：鶴飼氏）

他の訪問介護事業所と一緒に勉強会をした。今後も折に触れて他事業所と関わっていこうと思っている。

○周知活動について（資料配布有り）

- ・醍醐と山科の居宅を月1回ずつ訪問

勉強会：ケアプランセンター 虹

ケアプランセンター夢眠やましな（ZOOM）

（浅田）メリットだけでなくデメリット、滞在型との違いも含めて説明してもらいたい。

利用者に説明する時にメリットだけでは後で話が違ってもなりえる。

- ・健やか学級参加

脳トレ、地域の支え合いゲーム等を行った。

二年目を迎え参加者の方々からの認知度も上がってきたかと思っている。地域での相談場所としての知って頂くためにも地域の活動に積極的に参加していきたいと思っている。

- ・NPO 法人地域共生機構「ともつく」への参加

上記の目的から縁あって参加することとなった。

高齢者の就労活動を通じた社会活動、フレイル予防などに取り組まれている。

ツールの一つとして「裂き織」という文化を通じた取り組みについて弊社も協力することとした。こうした活動から災害時のBCPなども繋がっていくのではないかと考えている。

製品にして流通させるということが何もない状態であるが、京都市立芸術大学の生徒さんなど、この間生まれている色んな繋がりですこまで持っていけたらなど色んなことを考えている。

（松井）疎遠になりがちな地域で「繋がり」が生まれると良いなと感じている。「笑顔いっぱい」「レインボーカフェ」で居場所作りとしてそれぞれ月一回程度の集まりを続けている。会のメンバーに紹介したら興味は持たれていたのですが、また詳しく説明を受けられたらと思っている。

手作業が好きな人そうでない人もいますが、色んな工程があるのでそれぞれ出来る所で関わってもらいたいと思っている。

地域の課題・・・

（内海・高田）独居高齢者による近隣住民への迷惑行為の案件があった。訪問してみるととてもお元気で愛想よい方だったが、両隣の方々には夜中にドアを叩いてみられたりされるそうで、なぜそのようなことになるのか包括の西村さんにも相談したようなことがあ

る。介護が必要な方だけでなく「私は元気です」と言っている方々に向けてやりがいとなるような活動に繋がればと思う。高齢者は筆筒の肥やしで着物を持っているだろうが、自分の着物を自分で裂くのは心苦しいことがあると思うので、素材として提供してもらって、生まれ変わったものを提供出来たりすると良いのかもと思った。

(西村) 我々は報告があれば駆けつけるが、報告まで繋がらない方々が多くいる。このケースについても、言えぬ生活障害、ストレスなどがあるのではないかと感じる。すぐに介護サービスということではなく、そうしたストレスの逃げ道になるような活動になると良いと思う。内海様、高田様におかれても日々の挨拶だけでも良いので顔を合わせた時だけでも続けてもらえれば何かしらの変化に気づけるかもしれない、その時が我々のまた介入できるタイミングかと思っている。

○自己評価・外部評価について・・・別紙有り

外部評価集計後の事業所での取り組み

日々の情報共有など色んなツールを使って行っているが、手順書の更新が出来ていないという意見があり改善のための工夫をした。

他事業所より、LINE ワークスやチャットワークスを利用した情報共有のご提案があった。小さい事業所は事務員を配置することが難しかったりする現実もある中でそうした方法も検討していこうと思っている。次回10月にまたお話出来ればと思う。

次回 R6 年度第 2 回 介護・医療連携推進会議 : 令和 6 年 10 月に予定し

ております。ご協力をお願いいたします。

以上